

対象学年・単位：高校1～2学年・各2単位

企画担当：教務部の管轄だが、内容によってSGH委員会、教養部、学年主任が主導

授業担当：「私の研究」は全教員、「昭和祭研究」「サービスマーケティング」はクラス担任

学校data

1920年創立／普通科／生徒数665人(女子のみ)／進路状況(2014年度実績)大学206人・短大4人・専門学校1人・留学・その他2人
★ユネスコスクール(2012年～)
★平成26年度SGH指定校

昭和女子大学附属
昭和高校
(東京・私立)

Report 02

伝統的な教育基盤に先進性を融合し
中高6年間で10回以上
個人・共同で課題研究に取り組み

時代に合わせた全人教育の
実践に「総学」を活用

昭和女子大学附属昭和高校は「世の光となろう」という建学の精神のもと、全人教育に力を入れる中高一貫の女子校だ。その基盤の上で、変化化する社会の要請や国の教育施策に柔軟に対応し、伝統と先進を融合させてきた。

こうした姿勢は「総学」においても貫かれている。現在、「総学」で行われている課題研究には数十年の歴史がある。当初は正課以外の時間を使って取り組んでいたが、「総学」のスタートに伴ってその「コンテンツ」として組み入れた。さらに、2012年にユネスコスクールの認定、2014年にSGHの指定を受けたことで、「総学」にもESD(持続可能な開発のための教育)やグローバルの視点を取り入れて充実を図っている(下図)。副校長の會川恵志先生はこう話す。

「グローバル化が進む社会にあつて、生徒にはよき国際人、よき日本人、その前によき個人に育ってほしいと思っています。そのため、課題に対し自ら学び、考え、発言・発表する能動的な学習を大切にしていきます」

ESD・グローバル関連の
テーマを各自1年間追う

同校では中学1年から高校2年までが、毎年、「私の研究」と「昭和祭研究」という2つの研究に、1年間の「総学」の時間を約半分ずつ使って取り組む。

まず「私の研究」は、ESDに関連するテーマについて1年間かけて取り組む個人研究だ。生徒は年度始めに「日本の農業」や「海洋資源」など興味のあるテーマを各自で設定し、指導教員を選ぶ。夏休みにアンケート調査やインタビューなどのフィールドワークを行い、論文作成と発表を行う(図1上部)。

昨年度からはSGHのプログラムの一つとして、一部で通常の「私の研究」とは若干異なる取り組みを導入。高校1、2学年の希望者(昨年度は選抜24人)は、グローバル課題解決プロジェクト研究に取り組んでいる。「企業や個人で活躍する女性グローバルリーダーの研究」「日本人女性のジェンダーギャップの研究」などのテーマ別に4つのグループ(LABO)に分かれ、それぞれ企業や大学からアドバイザーを招いて指導を受ける(図1下部)。アドバイザーの講義だけでなく、事

業所訪問・見学、海外からの留学生との交流なども実施。それぞれ個人テーマを持って各自でも研究を進めるが、メンバー全員でディスカッションや情報交換をしながらLABO全体としても課題の解決策を探っていく。

共同研究として
サービスマーケティングも導入

もう一つの昭和祭研究は、11月の昭和祭(学園祭)での発表を目指し、クラスで協力して取り組む共同研究だ(図2)。毎年、全校テーマを設定して取り組んでおり、昨年度の全校テーマは「We share the same planet: 守ろう!地球の未来」だった。それを各クラスでもう一段階焦点化した中テーマを設定。さらに6つに細分化した小テーマを班に分かれて分担し、個人でもテーマを持つ。

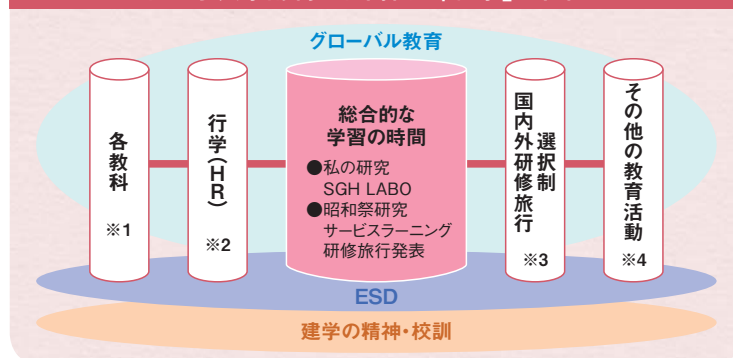
「個人で調べたものが班の成果になり、それが集まってクラスの成果になります。それを、模造紙等にまとめ、昭和祭で各教室に展示して研究成果を披露します」(勝間田秀紀先生)

今年度からは、高校1、2年の昭和祭研究の内容を改編。SGHプログラムの



写真中央、左、右の順に
副校長
會川恵志先生
高校教頭
岡野内理恵先生
SGH委員長
勝間田秀紀先生

昭和女子大学附属昭和高校の「総学」の位置づけ



※1: アクティブラーニングを重視
※2: 「総学」と合わせてサービスマーケティングにも取り組む
※3: 「国際理解」「平和」「環境」をキーワードに高1が取り組むSGH研究開発プログラムの一つ。「広島・関西」「ベトナム」「オーストラリア」など5つのコースから研修先を選択し、事前調査・情報収集、各研修先で現地高校生との交流や体験活動や、調査を行い、事後報告(まとめと発表)を行う
※4: やり抜く力や協働性を育てるため1～5年(中1～高2)が学年ごとに4泊5日の共同生活を行う「学寮研修」、朝のSHRを使ってプレゼンテーション能力を養うための3分間スピーチ「感話」などを実施

取材・文／藤崎雅子

図1 「私の研究」の研究テーマ

個人研究テーマ(例)	概要
日本のこれからの農業	4回の農業援助ボランティアや、若者の農業に対する意識調査等を通じ、日本の農業の課題に対する解決策を考えた。
養殖～海の可能性に迫る～	海洋資源が枯渇している現状と対策について、大学の講義を受けてリサーチ。今の自分にできること、今後研究していきたいことを考えた。
忍者をつかった町おこし	忍者をつかって町おこしをしている地域を訪れ、地域の環境協会などで取材。今後の観光戦略を提案した。
SGH 各LABOの研究テーマ	概要
企業や個人で活躍する女性グローバルリーダーの研究	グローバルに事業を展開する企業で働く女性社会人をモデルに、企業のしくみや優れている点、抱えている課題を知り、よりグローバルにキャリアをデザインする研究。(アドバイザー：富士ゼロックス常勤監査役)
日本人女性のジェンダーギャップの研究	日本人女性のジェンダーギャップの現状を知り、専門家の指導を受けながら、その課題を克服し、女性がグローバルにキャリアデザインを形成する方法を研究。(アドバイザー：スクールカウンセラー・臨床心理士・博士[学術])
海外で活躍する女性リーダーの研究	途上国における持続的な経済的自立を支える日本人女性グローバルリーダーをモデルに、支援の方法やリーダーとしてのあり方について研究。(アドバイザー：昭和女子大学准教授)
途上国女性の社会進出課題	バングラディッシュ、タイ、ラオスで因習や宗教により社会的な弱者となっている女性たちの現状、問題点を知り、専門家の指導を受け、途上国女性のキャリアデザインのために支援できることを研究。(アドバイザー：昭和女子大学特任教授)



昭和祭は生徒の研究発表の場

図2 昭和祭研究のテーマ構成

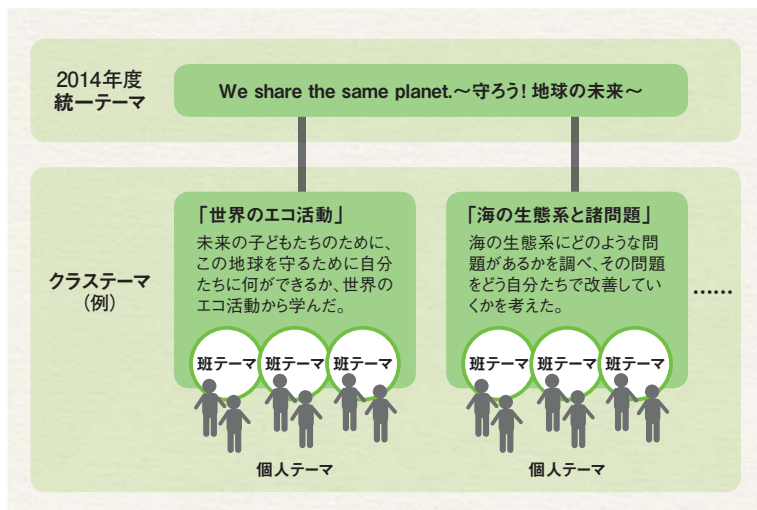


図3 サービスラーニングに取り組んだ生徒の振り返り

- ボランティア活動の意義を心得てから参加することで、ただやるというだけでなく、ボランティアを通じて現状を知ったり、今後の課題を考えることができた。
- 文献研究だけでは知れないことをボランティアで得ることができ、そこから自分たちの多面的な目線で問題にしっかりと目を向けることができた。これからはさまざまな問題に対し、他者の意見も取り入れて解決していきたい。
- 今回の研究内容を周りの人たちに伝えていくこと、その上で自ら行動していくことの大切さを学んだ。
- 初めてサービスラーニングに取り組んで手探り状態であったが、グループで課題解決策を考えることができた。また他のグループの発表を聞いて、視野を広げることができた。
- 日本で起きている問題は自分に影響を与えるものも多くあり、また、自分が行動することで解決に一つ近づけることを知った。今後も問題に目を向けて行動していきたい。

One Point 効果を高める指導のコツ

グループ間の情報交換で協同性をアップ

昭和祭研究は、グループの研究結果が集まってクラスの大きな成果となる。クラス全体で研究の質を高めるため、「総学」の授業の最初にグループ同士が進捗報告を行う時間を設けている。「クラス全体の状況の把握、研究内容の重なり調整ができます。また、グループ間でお互い新鮮な視点でアドバイスを行うことができ、他グループの動向が励ましになっているようです」と岡野内先生。研究活動は生徒主導で行うが、教員のちょっとした配慮により協同性を高めることができるようだ。

一つとして昨年度からHR「行学」で取り組んでいるサービスラーニングを、さらに「総学」の時間も利用して拡充を図る。サービスラーニングとは、社会奉仕活動を通して市民性を育む学習のこと。単にボランティアをするのではなく、ボランティアを通じて現状の問題点を見つけて解決策を探ることが狙いだ。

「地球・環境」「子ども・教育」「高齢者」「介護」などの分野別に5〜7人のグループを編成。グループごとに事前学習や計画書作成を行ったうえで、夏休みにボランティア活動を実施する。例えば、植林活動をテーマに玉川水源森林隊の森林

保全活動に参加したり、ホームレス支援をテーマに上野公園で炊き出しを手伝う。その経験をもとに自分たちができることを考え、昭和祭や年度末の発表会で報告する(参考:図3)。

いかにしっかりとテーマ設定するかが大事

同校で繰り返される課題研究には、いくつかの共通点がある。昭和祭研究では、「研究委員」の生徒を中心とした進行をはじめ、いずれの研究でも生徒の自発性・自主性を重視。グループ編成の規模は、ディスカッション時に全員が発言しや

すい5〜8人程度が基本。研究のプロセスには必ずフィールドワークを課し、体験を重視。研究ごとにレポート作成とプレゼンテーションを欠かさず、表現力を磨くことなどがあげられる。

また、一連の課題研究のプロセスの中では、特に最初の課題設定に対する手厚さがうかがえる。「私の研究」では単に「インターネットで調べて終わり」にならないテーマが設定できるまで、指導教員が助言する。SGHのLABOにおける個人テーマの決定は、プログラムの最初ではなく、講義や討論を重ねた中盤で行う例が目立つ。「研究テーマに関連する学部・学科に進学する生徒は多い」と會川先生。課題研究はキャリア設計にもつながっているようだ。